

強者の戦略

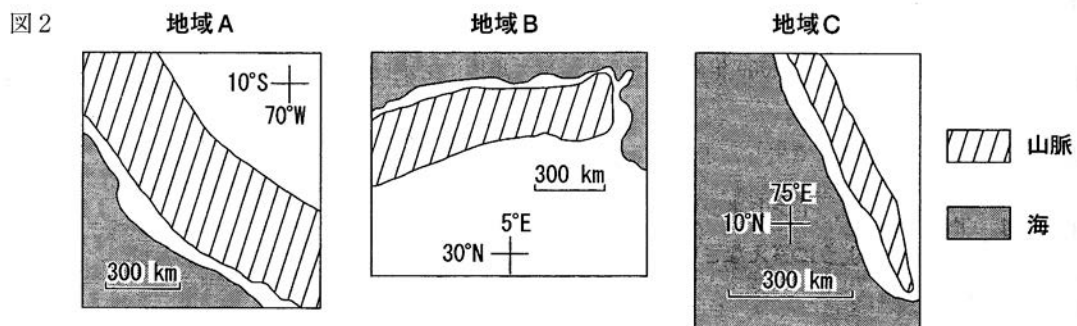
第2問

世界の農業と水産業に関する以下の設問A～Cに答えなさい。解答は、解答用紙の(ロ)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問記号をつけて記入しなさい。

設問A

世界各地の大陸の沿岸部をみると、海岸線から比較的近い場所に長大な山脈が走り、海岸から内陸に向かって数百キロ移動する間に、自然環境や土地利用が大きく変化する地域がある。このような地域に関する以下の問いに答えなさい。

- (1) 図2の地域Aと地域Bにはいずれも砂漠気候がみられる。砂漠気候がみられるのは、それぞれ山脈をはさんで海岸側と内陸側のどちら側か。地域A、地域Bの順に、それぞれの地域の砂漠気候の成立理由とあわせて、全部で3行以内で述べなさい。
- (2) 地域Aの概ね2000m以上の山岳地帯で栽培・飼育されている代表的な農作物と家畜をそれぞれ1つずつ挙げなさい。
- (3) 地域Cでは5～10月、11月～4月のいずれかの時期に降雨が集中するか。その理由とともに、1行で説明しなさい。
- (4) 地域Cの海岸地帯で生産されるこの地域の主食となっている農作物(ア)と、山麓の丘陵地帯で生産される代表的な商品作物(イ)を、アー○、イー○のように、それぞれ1つずつ挙げなさい。



強者の戦略

設問 B

農産物を、生産された地域のみで消費することに比べて、適地適作の観点から、最適な地域で大規模に生産して国際的に取引する方が、より効率的に、かつ安価に食料を確保することができると言われている。その反面、このことによってどのような問題が生じると考えられるか、想定される問題点を2つ挙げて、3行以内で説明しなさい。

設問 C

次の表2は、世界の主要な水産国について、1970年から2009年の漁獲量の推移、2009年の漁獲量の世界順位、2009年の養殖業生産量を示している。なお、漁獲量は養殖業生産量を含まない。

- (1) (ア)～(ウ)は、アメリカ合衆国、インドネシア、ペルーのいずれかである。(ア)～(ウ)の国名を、ア～ウのように答えなさい。
- (2) (イ)(ウ)両国の養殖業生産量(b)と漁獲量(a)の比率(b)/(a)を比較すると、大きな差が見られる。(イ)国でこの比率が高くなる理由として考えられることを、(イ)国の自然的・社会的条件から、2行以内で述べなさい。
- (3) 近年、世界各国で水産資源の持続的利用についての関心が高まり、水産資源を管理するための国際的な取り組みが盛んになっている。このような国際的な取り組みが必要とされる理由を、具体的な水産資源の例を挙げて、下記の語句をすべて用い、3行以内で述べなさい。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所に下線を引くこと。

排他的経済水域 総量規制 消費量 生息場所

表2

国	漁獲量(万トン)						養殖業 生産量(b) (万トン・ 2009年)	(b)/(a)
	1970年	1980年	1990年	2000年	2009年 (a)	世界順位 (2009年)		
中国	249	315	671	1,482	1,520	1	4,528	2.98
(ア)	1,248	271	687	1,066	692	2	4	0.01
(イ)	115	165	264	412	510	3	471	0.92
(ウ)	279	370	562	476	423	4	48	0.11
日本	872	1,004	968	509	419	6	124	0.30
世界計	6,383	6,824	8,592	9,467	9,012	—	7,304	0.81

漁獲量と養殖業生産量のいずれも、魚介類と海藻類を含む。

水産白書 2010 による(原資料はFAO資料および農林水産省資料)。